令和６年度　にしふじのみや幼稚園学校評価

自己評価実施日　令和７年1月17日

学校評価委員評価実施日　令和7年2月14日

学校法人土橋学園　にしふじのみや幼稚園園長　矢部理恵子

学校法人土橋学園　にしふじのみや幼稚園学校関係者評価委員委員長　佐野多知子

１　幼稚園の教育目標

「独り立ちする子」をめざして　「一人一人が輝く子ども」

１　思いやる心　２　丈夫な体　３　考える力

２　重点目標

・幼稚園ならではの体験・たくさんのお友達や先生と関わる事によって自立のための基礎を育てます。

・「生きる力」「愛」を掲げ、社会性のある子を目指します。

・「知育」「徳育」「体育」をバランスよく組み合わせた教育を行っていきます。

・研修主題＊様々な個性や特性を持った子どもたちが共に育ち合うために＊

３　評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

※結果の表示方法　Ａ　十分に成果があった
Ｂ　成果があった
Ｃ　少し成果があった
Ｄ　成果がなかった

		自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価項目	評価点	反省と改善点	評価点	意　見
1	保育の計画性	A	・子どもたちの様子や発達に合わせ、個々が成長できるように目標を立てながら、日々の保育計画を設定することを心掛けていった。一人ひとりが輝く、より良い保育や行事等が行えたと思う。 ・日々の保育の中の反省は、次に生かすことができるようその日に見直しをするようにしている。ほかの先生の保育から学び、実践することで自らの保育につなげている。 ・他の職員が研修で学んできた壁面のシンプル化など環境の工夫をすぐに取り入れたり、振り返ることができた。 ・今年は初めてのロゼシアターで発表会が開催されたが、試行錯誤しながらいい発表会ができてよかった。個々の力に合わせた目標を設定しながら、保育を計画していくよう心掛けた。 ・園の伝統を大切にしつつ、今の情勢に合わせた行事の見直しが出来ていたと思う。担当する職員の色が出て子どもたちにとって楽しい思い出の1つになると良いと思っている。 ・日々の保育の中で、活動内容や子どもの姿を振り返り記録をすることで、１人１人の成長に合わせた保育に繋げることができたと感じる。	A	・壁に飾られている絵や作品が個性的で楽しいです。工夫しているなあと感じます。 ・つばめ組では、1人一回は代表の言葉をやろうという目標を４月当初より担任の先生から伝えられ、様々な行事でみんなの前で代表の言葉を言う機会があり、「一人ひとりが輝く」という教育目標にあっていたと思います。子どもたちにとってもいい機会であり、「次は自分だ！」という目標を持てたと思います。 ・お掃除をしてくれた先生にお礼のあいさつをしているのがよいと思います。 ・初めてのロゼシアターでの発表会でしたが、先生方が下見など準備をしっかりしてくださり、保護者への連絡も重ねてしてくださったおかげで、スムーズな開催につながったと思います。当日の並び方を写真付きで示して下さったのがわかりやすかったです。当日、混乱することなく並べていました。 ・子どもたち一人ひとりと向き合い計画を立てていると思います。日常の保育の現場や行事をより良くするための目標設定をされていると思います。

2	保育の在り方 幼児の対応	A	・子どもたちのことについて職員間で日頃から相談したり、情報を共有したりすることができた。他学年の先生はもちろん、パートナーの先生方にもたくさん助けられました。子どもたちの成長等を全ての先生方で喜び合える環境が素晴らしいと思います。 ・子どもたち一人一人の個性や発達に合わせた対応ができるよう工夫している。 ・新しい職員を迎え、また新たな気持ちで１年を過ごせた。当たり前だと思っていることも一度振り返ったり、立ち止まってみると疑問を感じることもあり、改善することができた。 ・今年はとても暑い日が続き、夏の間はとても気を使う日が多かったが、エアコンをうまく使ったりして体調面に気をつけて過ごすことができた。 ・パートナーの先生もいてくださるので、子どもを見守る目が増え安心して過ごすことができた。子どもたちの様子や行事などに合わせて動いてもらえたことがとても有難かった。 ・職員室で、各クラスの子どもについて相談や話をし、情報交換することで、自分のクラスでない子と関わるときに対応することができた。 ・様々な個性を持ち合わせた子どもたちに合わせた関わりができるよう、他の施設（病院・療育支援センター等）とも連携しながら、学級に合わせた環境設定や関わりを持つようにした。 ・パートナーの先生が増え色々な視点で子どもたちに接することが出来ていると思う。遊具の破損等大人の目線では気づけない部分に気を配らないといけないと思う。	A	・総練習など、行事の準備に参加してみると、全員がそろう場面で当然のことですが、座っていられない子や泣いてしまう子も見られました。その度にサポートの先生や担任・副担任の先生方が気づき、すぐに対応されていました。ほかの子どもたちも安心して参加できていたと思います。 ・大泣きをしている子に対して目線を合わせてポンポンと背中をたたきながら寄り添って話を聞いている先生の姿が素敵です。 ・一人一人の個性と向き合い、子どもたちの成長や体調に気遣っていることがよくわかります。職員の数が増えたことで気を緩めることなく、ものの見方の違いによる気付きがあり対応力アップにつながっていると思います。
3	教師としての 資質・能力 良識・適正	A	・産休育休明けのこの１年、子どもの体調不良等で欠勤することが多くあり、先生方にたくさん助けていただきました。ありがとうございました。自分ができることは精一杯、そして恩返しができるよう、努力していきたいです。 ・日々の子どもたちの成長を感じることができ、私自身も頑張ろうとパワーをもらっています。先生方がアドバイスをくださったり、助けて下さり、感謝でいっぱいです。 ・にしふじのみや幼稚園で勤務２０年を迎えることができ、改めてこの幼稚園で仕事ができる喜びと充実感を感じると共に、今まで勤められてきた先生方や、現在一緒に仕事をしてくださっている先生方をはじめ支えてくださった方に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。この幼稚園で幼稚園教諭の仕事ができて幸せです。 ・子どもの成長に関われる幸せな職業だと日々感じています。職員も１つのチームとしてうまく機能しています。サポートする立場なのでチームがうまく機能出来るよう仕事が出来たらいいと思います。 ・初めてのことばかりですが、先生方にたくさんのことを教えていただきました。ありがとうございました。元気な子どもたちに負けないくらいパワーがある先生方に追いつけるよう日々努力していきたいと思います。 ・様々な個性を受け入れながら、その子らしさを大切にし、一人ひとりに寄り添っていくことを引き続き頑張っていきたい。	A	・先生方がサポートをし合い、チームとしてうまくまとまっているように見受けられます。１チームとして支え合い助け合える関係性が築けていて働きやすい環境ができていると思います。 ・毎回でなくても、「今日はこんなことがありました。」と話して下さることも多く、保護者にとっては子供の様子を聞けてとてもうれしいです。心配なこと、困ったことがあった時も、必ず声をかけてくださるので安心します。 ・どの先生も、朝は笑顔で１人１人に挨拶してくださり、帰りは「行ってきました」と笑顔で送り出して下さる、毎日の事ですが、いつもその対応に感謝しています。 ・先生方が協力し合い、いろいろ考えて保育をしていることがとても良いと思います。無理せずこれからも元気パワーでよろしくお願いいたします。 ・常に自分と向き合い、職員間で話し合い助け合い、しっかり子どもたちのことを考えてお仕事をしている姿に頭が下がります。

4	保護者への対応	A	・子どもたちの成長のためにも、保護者の方と密に話し合いを行い、関わっていくことはとても大切であることを改めて実感する場面が多かった。子どもたちのできるようになったことはもちろん、苦手意識のあることも保護者の方に伝え、連携を大切にし、共通理解していくことの重要性を感じた。 ・保護者とのかかわり方や受け答えの仕方などはまだまだ勉強中で、難しさを感じる。他の先生から見て学び適切な関りを心掛けたい。 ・保護者の方からプライベートゾーン（夏の水着や着替えについて）のご意見をいただき、職員で話し合い見直し・改善ができてよかった。 ・保護者の方に情報を伝える際、メールよりLINEの方が確認しやすいのではないかと職員間で話し合い、LINEを使用することで、保護者の方に伝わりやすい方法を考えている。 ・様々な考え方や家庭環境がある中、いろいろな対応方法を考え、連絡をとったり、連携をとることができた。		・保護者との関わり方は本当に難しいと思います。思いもよらない角度からの意見や無茶な要求に対してどのように対応したら理解、納得してもらえるか日々模索されていると思います。ただ子どもたちの成長の為に保護者との情報共有は必要不可欠なので先生方で協力しながら対応していってほしいです。大変だと思いますが頑張って下さい。 ・先生方が送迎の時にいつも保護者とお話をしているのを見かけます。コミュニケーションをとってとても良いことだと思います。 ・今年から保護者の連絡手段にLINEが加わり、より実用的になってよかったと思います。（メールはその他多数のメールに紛れてしまうこともあるため） ・毎日のことでなくても、子供の様子を伝えてくれると保護者はうれしいです。学年や担任、子供によって大差がないようぜひお願いいたします。 ・保護者も今と昔で異なることが沢山あると思うのでその都度意見を聞いてあげ保護者に寄り添い続けてあげてください。
5	地域の自然や社会との関わり	B	・淀川区民館で行われた「敬老会」、初めての参加だったが、子どもたちの元気パワーをたくさんのおじいちゃん・おばあちゃんに届けることができたと思う。地域の方々に見守られていることを改めて実感した。 ・今年は、淀川区民館にて敬老会に参加させていただいた。子どもたちの元気な歌を届けることができ、地域の方々も喜んでいたと思う。 ・時間が合う時にはあそびの広場などで未入園児さんと関わることができ、入園前から少し慣れることができ、入園がスムーズになる子が多かった。 ・卒園児が親になって戻ってきてくれることが増え幸せを感じる。いつでも立ち寄れる、遊びに来られる場所でありたいと思う。 ・年長の行事で、富士川楽座に出かけたり、研修で小学校訪問に行ったり、地域や小学校と関わることができた。 ・地域の方々や卒園児の子どもたちを含め、他の方々にも挨拶をしたり、声を掛けるように心掛けている。	A	・雨や雷などの時に雨宿りや傘を貸してくださったり、本当にありがたかったです。卒園した子どもたちをこれからも見守り続けていただきたいです。 ・「敬老会」では、私自身は参加できませんでしたが、父親が参加し喜んでいるおじいちゃんおばあちゃんを見て感動したそうです。とてもいい機会であったんだろうと思います。 ・消防フェスティバルにつばめ組がマーチング演奏で参加させていただき、初めての消防フェスティバルを体験しました。地域の行事に参加するいい機会になったと思います。 ・入園前の子ども達、卒園児、親になって子供を預ける立場になった卒園児、地域の年配の方々など幼稚園という場所ですが、いろいろな人が関わっていることがわかります。特に地域の敬老会への参加は喜ばれたと思います。
6	研修と研究	B	・今年はミドルリーダー研修やECEQ（公開保育）など様々な研修を受けて、保育の専門知識など学ぶことができた。また、「インクルーシブ教育」について園内研修を行い、保育について改めて見・研修会には進んで参加し、知識や技術を高めていきたい。 ・災害の時などにも使えるよう、ＬＩＮＥの活用をはじめた。行事の反省を活かし、保護者が連絡をキャッチしやすいようにできたのはよかった。 ・幼稚園の７０周年記念で宮西達也先生の講演を聞くことができ、より一層絵本の奥深さや楽しさを感じることができた。 ・はいチーズさんを導入し、子どもたちのかわいい写真をプロの方にとってもらうことができ、保育に専念することもできよかった。 ・幼小の連携に携わる研修に出させてもらい小学校の先生たちに年長児の可能性をもっと知ってもらわなければいけないことを知った。自分の立場で出来ることをしていきたい。	A	・働く保護者（共働き世帯）がますます増えていく時代、あすなろ会としても保護者の負担を減らしながらもお手伝いお父さん・お母さんとして親が幼稚園に関わる機会も大切にできたらと思います。 ・６月市内私立幼稚園PTA連合会、同じような問題を抱える園の取り組み、大変参考になりました。 ・LINEの活用やハイチーズフォトの導入など、時代の流れに沿ってアップデートしていく姿勢がいいと思います。

			・初任者研修で様々な分野の研修に参加することで、情報共有ができたり、新しい知識を身に付けたりすることができた。これからの保育に活かしていきたい。 ・今年度の園内研修は『様々な個性や特性を持った子どもたちが共に育ち合うために』を主題に設定し、インクルーシブ教育についての学びを深めることができた。		・多様性や個性・特性という言葉が普通に使われるようになり、インクルーシブ教育の研修の成果が生きてくると思います。向き合い方や対応の仕方など個人によって違うので大変かと思いますが、頑張ってほしいです。子供たちが小学校に上がるために幼稚園でできることを考えたり、先生方が働いていくにあたっての立ち回り方などいろいろ学ぶことがあり、保育に研修にとお忙しいと思いますが頑張ってほしいです。

４　本年度の重点課題の総合的な評価結果

・教育施設として今やれることをいろいろ企画し行事などを通して「一人一人が輝く子ども」を目標に個性を大切にする保育を通し、自分からやろうとする子は達成できたと思う。

・今回の研修を通して、自分たちの保育や子どもたちへの関わり方をじっくりと見直すことができた。職員それぞれが保育の引き出しを増やすことができたと思う。これからも引き続き研究を進め、今年度の研修で得たアイデアを日々の保育で活かしながら、「様々な特性を持った子どもたちが共に育ち合うために必要とされる保育・支援」の実現に向かって進んでいきたいと思う。

・幼稚園は「初めての学校・教育をする場」であることを基本に新しい発想を取り入れ更に資質の向上に努め子どもたちの為、園の為に協力して下さる保護者や地域の皆様に支えられ、今年度創立７０周年という歴史を刻むことができたことに感謝し、今後も保護者や地域の方々とのコミュニケーション、そして幼小連携を通して子育ての為の関係づくりを深めていきたい。

5　今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み
地域との関わり	幼小連携・回覧板による情報公開・情報の収集・地域内の施設訪問をし交流を深める　地域行事への参加
自己啓発	指導計画の見直しと、報告・連絡・相談を密に保育の営みを連携しながら更に向上させたい
基本的な生活習慣	家庭、地域、幼小等、連携を密にして実践する

6　学校関係者評価委員会からのコメント

・どんな子も居場所のある園である事が自己肯定感を育て「独り立ちする子」につながるのだと思います。孫も高校生となり、にしふじのみや幼稚園の楽しい思い出が彼の大きな心のよりどころの様です。先生方、お友達、皆様に感謝です。

・誕生会を見せていただきましたが、園児がオカリーナ演奏を楽しそうに聴いていて、自然に手をたたいたり、歌ったりしていた。話を聞くときは静かに聞いている姿を見て素晴らしいと思った。先生たちの目も行き届いていた。

・教室や廊下の壁の絵や写真,玄関のレゴの作品も季節ごとのイベントに合わせていてとても楽しいです。

・預かり保育がありとても助かっています。天候の良いときは外遊びを多くしていただけると有難いです。

・にしふじのみや幼稚園のモットーである「１園１学級」の言葉通り、すべての園児をすべての先生方がわかって下さっている安心感と、保護者は「１人１役」として園の行事に参加することで園とつながれること、地域に根差していることなど、にしふじのみや幼稚園の特色をこれからもずっと守り続けていってほしいと思います。

・全体を通して感じたのは、子供たちのことを第１に考えて先生方が行動、向上しているのがよくわかります。日常の保育・イベント・研修など、どれをとっても手を抜くことなく向き合っていることが伝わります。

・７０周年記念に宮西達也先生のお話会が開かれたのは驚きました。絵本作家の方に直接会える機会はなかなかないので、本当に貴重な経験をされたと思います。長男の発表会のオペレッタで宮西達也先生の「キツネのおとうさんがにっこりわらっていいました」だったので、インスタグラムでこの記事を見たときは羨ましかったです。

・LINE・インスタグラム・ハイチーズなどのツールを取り入れ、日常の連絡や保育の様子の配信、写真の撮影や管理などに上手に使われている印象があります。

・幼稚園での子ども達や先生達が楽しそう。一年生の黄色い帽子の贈呈関係のお手伝いをしているが令和7年度入学が８６０人、令和６年度の新生児は６００人と右肩下がり子どもの数は減っていますが７０周年の歴史あるにしふじのみや幼稚園を１００周年目指して頑張ってほしいです。

・幼稚園に８年間お世話になっています、上の子の時は園に通わせることで精一杯だったが、PTAの役員を２年間やってみて役員さんや先生方がこんなに行事や子ども達の為に手をかけて下さっているんだと実感した。

・在園児の保護者はもちろん、卒園児、その保護者のつながりがすごいと思う。３世代がにしふじのみや幼稚園の家族も多い。素敵なことだと思います。

・幼稚園のインスタグラムやホームページを見ていると幼稚園の日々の様子がわかる。卒園児の力士さんが頑張っている事やプロの音楽家の方が演奏したり、７０周年記念に卒園児の石材屋さんがマンモス君の記念碑を贈呈した等幼稚園に感謝をしているからこその行動なんだと思う。